



防府市民のみなさんが参加されている人権学習のようすや、防府市内の小・中学校が行っている人権についての取組を広く発信することにより、より多くの人が人権について考えることのできる機会をつくり、一人ひとりの人権が尊重された心豊かな温もりのある地域づくりの一助としたいと考えています。人権学習の依頼・質問等ございましたら、生涯学習課人権学習室までご連絡ください。(0835-23-3016)

向島公民館 いきいき・女性学級 3月4日(金)

「子ども叱るな 来た道じゃ 年寄笑うな 行く道じゃ」

講師：安田 孝子 人権学習指導員



向島公民館のいきいき・女性学級では、「高齢者の人権」をテーマに人権学習を行いました。

DVD「ここから歩き始める」を視聴し、高齢者が人間として誇りを持ち生きていくために大切なことについて、グループになって話し合いました。

参加者からは「認知症に対する不安はある。だからこそ、お互いに声をかけあうことが大切。」「認知症になるのは悪いことじゃない。困ったときには、色々な人に相談したらいい。」などの温かい声が聞かれました。

高齢者問題に限らず、人権課題を解決し、誰もが幸せに生活するためには、思いやりと支え合いを基盤とした地域社会の形成が欠かせないのだと改めて感じました。



新田公民館 高齢者教室 3月8日(火)

心豊かに生きる

～感染症の問題から人権が尊重された社会について考える～

講師：三輪 知志 人権学習指導員

感染症を原因として、日本国憲法で保障されている権利が侵害されたら・・・ということについて、新型コロナウイルス感染症の例やハンセン病の歴史をもとに考えました。学習会の内容を一部ご紹介します。



人権を考える時、「何があろうと人は人」という、人としての正しい考えをもとに、「私も同じ人」という立場に立った思いがなくてはなりません。

つまり、他人の苦しみをよそ事にせず、自分のこととして考えるのです。

それが共感であり、苦しむ人に「私が何かしてあげられることはないか」と

いう思いやりです。人権侵害について考えるとき、最も大切な事は決してよ

そ事にせず、自分の場合に置き換えて考えるのが大切ではないでしょうか。

(国立ハンセン病資料館 館長 成田稔)